

To know is to love

- 1 自治体名：日本 富山県
- 2 発表者名：荒木 美乃・安居 愛・高岡 千夏（富山県立大門高等学校）
- 3 活動名：大門高校周辺地域を対象とした生態系調査
- 4 活動期間：平成 28 年 5 月～
- 5 活動場所：大門高校及び学校周辺
- 6 活動参加人数：4 名
- 7 活動をはじめた経緯

これまで大門高校では、「国際理解・国際協力」に関する活動並びに「環境問題」に取り組む活動を推進することを目的に国際環境委員会を設置したり、情報コースの課題研究で環境をテーマにした研究を実施したりと環境の保全に関わる活動に取り組んできた。生物多様性の保全が叫ばれる中、これまでに生物をテーマにした研究はなされていなかったため、今年度は地域の生態系を知るために学校周辺の生物の調査を始めた。調査を進めるうちに、生物多様性の推進にはまずは身近な生物たちを「知ること」が重要だと気づいた。

- 8 発表要旨（図表を含む）

生物多様性の重要性について様々なところで目にするが、日本の現状として生物多様性への関心が薄れつつあるという世論調査が出ている。大門高校でも調査を行ったところ、「生物多様性という言葉は知っているが意味は知らない」と答えた生徒の割合が最も高く、生物多様性の保全について浸透していないことが窺えた。調査結果より、関心の薄れは身近な生物の存在を知らないことに大きな要因があると考え、高校周辺に生息する生物の調査を開始した。方法は以下のとおりである。

(1) 周辺地域で見かけた生物の調査と目視観察による調査

(2) ペリット内容物による生息個体種の調査

この調査により明らかになった日常生活の中ではなかなか目にするのができないけれどすぐそばでともに暮らす野生生物の姿を学校だけでなく広く地域に発信していきたいと考えている。そして生物の多様性について生徒や地域の人々と考える機会にしたい。

- 9 発表時の発表媒体の有無
有（Power point）